

令和元年度

糸島市環境基本計画の進捗状況

目標別の計画指標一覧

■目標1：地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する

1-1:3R・廃棄物の適正処理の推進		
	計 画 指 標	所 管 課
1	クリーンセンターへのごみ搬入量	生活環境課
2	市民の1人1日当たりのごみの排出量□	生活環境課
3	ごみの資源化率	生活環境課
4	段ボールコンポスト補助基数□	生活環境課
5	エコショップ登録店□	生活環境課
6	行政区内資源回収拠点設置箇所数□	生活環境課
7	ごみの減量やリサイクルの取組を心掛けている市民の割合(市民満足度調査)□	生活環境課
1-2:低炭素社会実現の推進		
	計 画 指 標	所 管 課
1	糸島市内の二酸化炭素排出量□	生活環境課
2	公共施設等の二酸化炭素排出量□	管財契約課
3	地産地消を意識し購入している市民の割合(市民満足度調査)□	農業振興課
4	地産地消販売額(直売所販売額)□	農業振興課
5	「地産地消応援団」店舗数□	農業振興課
1-3:再生可能エネルギー等の導入		
	計 画 指 標	所 管 課
1	住宅用太陽光発電買取件数□	生活環境課
2	公共施設へのクリーンエネルギー設備導入施設数□	生活環境課
3	防犯灯のLED導入基数□	危機管理課
4	エコカー公用車の導入台数	管財契約課
5	水素ステーションの誘致箇所数	生活環境課
6	節電や省エネを心がける市民の割合(市民満足度調査)	生活環境課

■目標2：糸島に息づく自然環境を保全・再生する

2-1:多様な自然環境の保全		
	計 画 指 標	所 管 課
1	荒廃森林整備面積	農林水産課
2	木の駅「伊都山燦」の木材集荷量	農林水産課
3	広葉樹の森の整備面積	農林水産課
4	水源涵養保安林等の指定区域拡大	農林水産課
5	担い手への農地集積率	農業振興課
6	水質調査箇所数	生活環境課
7	河川の平均BOD値	生活環境課
8	市街地や公園など生活環境に満足している市民の割合(市民満足度調査)	施設管理課
9	景観について市民の意識醸成のための研修会などの開催回数	都市計画課

2-2:豊かな自然の再生

	計 画 指 標	所 管 課
1	汚水処理人口普及率	下水道課
2	農家戸数	農業振興課
3	認定農業者数(経営体数)	農業振興課
4	ふくおかエコ農産物認証制度認定者数	農業振興課
5	新規就農者数(平成22年度以降)	農業振興課
6	耕作放棄地の再生利用面積	農業振興課
7	広葉樹林化実施箇所数	農林水産課
8	森林の間伐面積	農林水産課
9	松林保全アダプト制度の登録団体数	農林水産課

2-3:生物多様性の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	生物多様性地域戦略の策定	生活環境課

■目標3:歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる

3-1:歴史的風土・文化の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	怡土城跡保存修理工事の実施箇所数	文化課
2	新町支石墓群買上比率	文化課
3	神楽の保存団体数	文化課
4	無形の文化財の指定件数	文化課

3-2:環境教育・学習、環境保全活動の充実

	計 画 指 標	所 管 課
1	環境学習プログラム数	生活環境課
2	環境家計簿登録者数	生活環境課
3	環境ボランティア団体向け学習会の開催	生活環境課
4	環境イベントの開催	生活環境課
5	食育に関する農業体験事業数	農業振興課
6	学生のための食農事業数	農業振興課
7	市民1人当たりの公園面積	施設管理課

3-3:自然、歴史とのふれあいの推進

	計 画 指 標	所 管 課
1	自然歩道の整備延長	商工観光課

■目標4:安全・安心な生活環境をつくる

4-1:地域美化の推進

	計 画 指 標	所 管 課
1	春と秋の美化活動への参加者数	生活環境課
2	市の環境パトロールごみ回収量	生活環境課
3	不法投棄防止監視ネットワーク協力団体数	生活環境課
4	犬のしつけ方教室の開催数	生活環境課
5	空き地管理に関する指導件数	生活環境課

4-2:生活環境の保全

	計 画 指 標	所 管 課
1	糸島市は住みやすいと思う市民の割合(市民満足度調査)	生活環境課
2	野焼きの苦情件数	生活環境課
3	水道水の利用に不安を抱えている市民の割合(市民満足度調査)	水道課
4	給水普及率	水道課
5	災害廃棄物の処理・処分計画の作成	生活環境課
6	災害時し尿収集・処理計画の作成	生活環境課

■目標5:協働の仕組みをつくる

5-1:協働の仕組みづくり

	計 画 指 標	所 管 課
1	出前講座等の学習会参加者数	生活環境課
2	「アグリコラボいとしま」主体の産学官連携事業数	農業振興課

5-2:環境情報の共有

	計 画 指 標	所 管 課
1	環境情報サイト新着情報数	生活環境課

5-3:人材の育成と活用

	計 画 指 標	所 管 課
1	環境ボランティアネットワーク加入団体数(加入者数)	生活環境課

○糸島市環境基本計画の進捗状況集計表（令和元年度実績）

令和元年度の計画の進捗状況について、64の計画指標ごとに点検・評価を行いました。

評価基準	「達成済」: 達成
	「A」: 順調に進んでいる
	「B」: 概ね順調に進んでいる
	「C」: ある程度進んでいる
	「D」: やや遅れている
	「E」: 遅れている
	「—」: 評価できない

【目標ごとの評価集計】

目 標	計 画 指標数	達成済	A	B	C	D	E	—
1. 地球にやさしい生活を実践し 循環型・低炭素社会を実現する	18	6	1	3	2	3	3	0
2. 糸島に息づく自然環境を保全・ 再生する	19	6	1	8	1	1	1	1
3. 歴史、文化、自然とふれあえる 快適な社会環境をつくる	12	8	1	3	0	0	0	0
4. 安全・安心な生活環境をつくる	11	5	0	2	1	3	0	0
5. 協働の仕組みをつくる	4	1	0	1	2	0	0	0
合 計	64	26	3	17	6	7	4	1
	100%	40.6%	4.7%	26.6%	9.4%	10.9%	6.2%	1.6%

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる

■施策の方針 1-1 3R・廃棄物の適正処理の推進

「D」やや遅れている 「E」遅れている 「-」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実績	元年度 実績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	クリーンセンター へのごみ搬入量	29,954トン□	28,400トン□	基準値より 5%減	32,124トン	33,216トン	●家庭系ごみの搬入量は、人口の増加に伴い増加傾向にある。 ●事業系ごみの搬入量は、H30年度の6,170tからR元年度の5,784tと386t減少。	○対前年度比1,092トンの増加。 ○家庭系ごみ：校区文化祭や出前講座等でごみ減量の推進を行った。 ○事業系ごみ：ごみ袋の規格、料金等の改正を行った。	●各種イベントにおける家庭系ごみ減量の推進と事業系ごみの減量のための「事業所紙資源回収事業」の充実を図る。 ●継続してごみ減量の出前講座の開催や広報、ホームページなどでの啓発を行う。	D	生活環境課
2	市民の1人1日 当たりのごみの 排出量	792g□	750g□	基準値より 5%減	837g	865g	●「有価資源回収活動奨励補助金」、「資源集積倉庫等設置補助金」による紙ごみの資源化及び「ごみ減量化器材購入補助金」による生ごみの減量を推進している。	○対前年度比28gの増加。 ○有価資源回収活動奨励補助金 …1,421,394kg 5,685,576円	●紙ごみ、特に「雑がみ」の資源化及び「生ごみ」の水切り・堆肥化を重点に、可燃ごみ減量の普及・推進に努める。	D	生活環境課
3	ごみの資源化率	26.0%□	30.0%□	毎年1%の 増	24.0%	25.1%	●リサイクルセンターにおける不燃ごみの資源化、市民による有価資源回収活動及び牛乳パック・食品トレイ回収等の資源化に取り組んでいる。	○対前年度比1.1%の増。 ○クリーンセンター資源化量 …7,190トン ○資源(集団)回収量 …1,422トン	●ごみの分別の徹底と資源回収拠点の多様化に取り組む。 ●新規品目として、携帯電話、スマートフォン、インクカートリッジなど再資源化できるものについて回収ボックスの設置を行う。	C	生活環境課
4	段ボールコンポ スト補助基数	2,863個□	3,837個□	毎年5%の 増	1,804個	1,625個	●校区文化祭や出前講座等の各種イベントにおいて「生ごみの堆肥化」によるごみの減量を推進している。	○対前年度比179個の減少。 ○ごみ減量化器材購入補助金 →1,625個、733,400円	●JA糸島と連携した生ごみたい肥を活用する園芸講座の開催。 ●各校区の公民館などと連携して、段ボールコンポストの講座の開催。 ●広報、ホームページでのPR活動	D	生活環境課
5	エコショップ 登録店	—□	30店□	制度の創設	—	—	●制度の内容等の検討段階で制度の創設には至っていない。	○エコショップについては、他市の状況の調査・研究を行った。	●費用対効果を含む内容、創設について検討を行う。	E	生活環境課
6	行政区内資源 回収拠点設置 箇所数	44箇所□	60箇所□	基準値より 50%増	53箇所	53箇所	●資源回収を推進するためには、倉庫等の拠点設備が有効であることから、「資源集積倉庫等設置補助金」を設け、行政区内への拠点整備を推進している。	○新任区長会にて案内を行った。 ○倉庫の整備が必要な行政区の区長に設置の案内を行ったが、設置までには至らなかった。	●資源回収団体活動の活性化・活動の継続性確保のための拠点整備に努める。 ●行政区長への周知を行い、事業を推進する。	B	生活環境課
7	ごみの減量やリ サイクルの取組 を心掛けている 市民の割合 【市民満足度調査】	79.7%□	90.0%□	基準値より 10%増	82.3%	81.2%	●市民まつりや校区文化祭、出前講座で、ごみ減量意識の普及啓発に取り組んでいる。 ●広報やホームページでごみ減量に関する記事を掲載し、啓発を行っている。	○校区文化祭、出前講座等各種イベントで、ごみ減量意識の普及啓発に取り組んだ。 ○広報及びホームページにごみ減量に関する啓発記事を掲載した。	●市民まつりや校区文化祭、出前講座等各種イベントにおいて、ごみ減量意識の高揚を推進する。 ●広報やホームページでごみ減量に関する記事を掲載し、啓発を行う。	B	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる

■施策の方針 1－2 低炭素社会実現の推進

「D」やや遅れている 「E」遅れている 「－」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	糸島市内の二酸化炭素排出量	6 2 8 千トン (H24年度)	5 5 2 千トン	毎年1.5% の減	538千トン (H28年度)	546千トン (H29年度)	●毎年、省エネ等に関する広報やホームページへの啓発記事の掲載やイベント内での啓発を行っている。また、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入による排出量削減に努めている。	○広報掲載 ○ホームページ掲載 ○イベント内での啓発(手をつなぐ市民のつどい、はてな博)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、再生可能エネルギーの活用と省エネルギーを推進しており、引き続き計画を進めることで排出量の削減に努めていく。	達成済	生活環境課
2	公共施設等の二酸化炭素排出量	18, 263 トン	17, 319 トン	基準値より 5 %減	14, 396 トン	14,647トン	●二酸化炭素排出量は、基準値と比較して約20%、目標値と比較して15%減少した。 ●二酸化炭素排出量が前年度実績より約1.7%増加したのは、クリーンセンター等の施設の排出量の増による。	○共通行動計画に基づき、公共施設すべてで、冷房、暖房の温度管理を徹底し、経費の削減と地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出量の削減に努めた。	●再生可能エネルギー導入計画に基づき、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入促進を図り、二酸化炭素の排出量の抑制を図る。	達成済	管財契約課
3	地産地消を意識し購入している市民の割合 【市民満足度調査】	6 9 . 5 %	7 2 . 0 %	基準値より 4 %増	7 4 . 3 %	73.1%	●ベースには、近年の「食」の安全性に対する意識の高まりがある。それに加え、産地としての糸島産の信頼もあり、伸びていると考えられる。実際、直売所の販売総額も伸びている。	○H31.2に直売所の連携強化を目的に直売所ネットワーク会議を設立。直売所施設の拡充(3件)、イベント(5件)に対して支援した。また、2回の研修会を実施した。	●直売所のネットワーク会議で、施設やイベント支援や直売所間の連携強化、研修等を実施し、糸島産に対する要望に応じられる体制を目指す。 ●学校給食や地産地消応援団に対する取組みを強化する。	達成済	農業振興課
4	地産地消販売額 (直売所販売額)	5 3 億円	5 5 億円	基準値より 4 %増	6 1 億円	62億円	●糸島産食材に対する人気もあり、直売所での販売額は着実に伸びている。 ●一方で高齢化等により縮小気味の直売所もあり、1店閉店している。	○食品表示、マーケティングに関する研修を2回実施した。 ○糸島地域広域連携プロジェクト推進会議において中村学園大学生徒と連携して「直売所ガイドブック」を作成。このマップを活用して直売所間を巡るスタンプラリーを実施した。	●直売所ネットワーク会議で施設の機能拡充及びイベントに対する支援の推進と合わせ、直売所間の連携強化、研修等を実施し、販売額の向上だけではなく、直売所の機能強化を図る。	達成済	農業振興課
5	「地産地消応援団」店舗数	1 0 2 店舗	1 2 0 店舗	基準値より 2 0 %増	1 1 1 店舗	118店舗	●広報紙やホームページでのPR及び、食品産業クラスター協議会の加入店舗などに推進したことにより、伸びていると考えられる。	○広報、HPを活用して地産地消応援団の加入推進を実施した。	●今後も、広報等を通して加入を推進する。	B	農業振興課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

■施策の方針 1－3 再生可能エネルギー等の導入

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている 「E」遅れている 「－」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実績	元年度 実績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	住宅用太陽光発電買取件数	2, 7 7 2 件	3, 5 0 0 件	毎年1 2 0 件の増	1 9 8 件 (3, 742件)	198件 (3,742件)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、住宅用太陽光発電設備の導入を推進しており、概ね順調に導入が進んでいる。	○住宅用太陽光発電設備設置に対する補助制度の創設を県に要望するとともに、市での補助制度創設の検討を進めた。	●市民への啓発を強化し、設備導入につなげるため、令和2年度より住宅用太陽光発電設備の設置に対する補助を開始する。	達成済	生活環境課
2	公共施設へのクリーンエネルギー設備導入施設数	1 6 施設	2 1 施設	毎年1 施設の増	2 施設 (2 0 施設)	1施設 (21施設)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、公共施設への積極的な導入に努めている。	○一貴山コミュニティーセンターに出力11kwの太陽光発電設備を設置した。	●令和2年度は、東風コミュニティセンターと健康福祉センターあごらに太陽光発電設備を導入予定。令和3年度以降も国の補助金等を活用しながら整備を目指す。	A	生活環境課
3	防犯灯のLED導入基数	7 4 3 基	5, 3 7 8 基	毎年約880基の増	1, 345基 (5, 622基)	1,302基 (6,924基)	●実施計画の防犯灯LED改修事業で、ワット数の高い水銀灯、白熱灯を中心に960基程度をLED灯具に改修している。	○実施計画事業、修繕、新設、寄附等により、1,302基の防犯灯についてLED化をおこなった。	●令和2年度以降も、実施計画に沿って毎年度960基程度の防犯灯についてLED化を推進し、二酸化炭素排出量削減と電力使用量の削減に取り組む。	達成済	危機管理課
4	エコカー公用車の導入台数	3 台	5 台	基準値より2 台増	0 台 (3 台)	0台 (3台)	●市が保有する公用車のうち、ハイブリットカー2台、電動バイク1台がエコカーとなっている。	●令和元年度の公用車の買い替えは2台行ったが、同車種に販売されているエコカーがなかったため、エコカーの導入を見送った。	●令和2年度の公用車の買い替え予定は3台であり、いずれも軽自動車である。購入予定車種にエコカー対象があるため、積極的な導入を図る。	E	管財契約課
5	水素ステーションの誘致箇所数	0 箇所	1 箇所	1 箇所誘致	0 箇所	0箇所	●水素ステーションの誘致に努めているが、平成28年3月に市近郊となる福岡市西区西都に整備されたため、近年中の市内への誘致が厳しい状況である。	○県内の水素ステーションは10箇所と飽和状態にあるが、ステーションの新規整備の動きも少なく、誘致に関する取り組みが進まなかった。	●福岡県の水素関係部署や水素関連企業と情報交換しながら、できるだけ早い時期に市内に誘致できるよう努める。	E	生活環境課
6	節電や省エネを心がける市民の割合 【市民満足度調査】	8 0. 2 %	8 5. 0 %	基準値より5 %増	77. 0%	79.3%	●東日本大震災に伴う電力不足時の国を挙げた節電の推移により、市民の節電意識はかなり高まった状態にある。 ●より多くの市民への意識の浸透に向け、広報やホームページへの啓発記事の掲載やイベント内での啓発を行っている。	○広報掲載 ○ホームページ掲載 ○イベント内での啓発(手をつなぐ市民のつどい、はてな博)	●広報やホームページへの節電・省エネ啓発記事の掲載やイベント内での啓発を継続する。	C	生活環境課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2　糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針　2－1　多様な自然環境の保全

「A」順調に進んでいる　「B」概ね順調に進んでいる　「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている　「E」遅れている　「－」評価できない　「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実　績	元年度 実　績	現　　　　状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	荒廃森林整備面積	1，　0　6　0 ha	1，　5　6　0 ha	毎年 8　0 ha の増	6　1 ha (1,732ha)	60ha (1,792ha)	●木材価格の長期低迷により林業経営の採算性が悪化し、森林所有者の林業に対する関心は低下しており、林業の担い手の減少、高齢化により、間伐などの森林整備が遅れているので、福岡県の森林環境税を活用しながら、順次、荒廃した森林の整備を実施し、健全な森林づくりを進めている。	○福岡県の森林環境税を活用した間伐など60haの森林整備を実施した。	●今後も、森林環境税を活用しながら、水源涵養機能や土砂災害防止等の森林の持つ多面的機能を発揮させるため、荒廃森林の整備を進めていく。 ●現在、糸島型森林再生プロジェクトを立ち上げ、森林施業のサイクルの復活のために、森林保全の担い手育成、糸島産材の活用促進について取り組んでいる。 ●平成25年10月には、間伐材等の貯木場「伊都山燦」を開所し、間伐材の利用を促進する。	達成済	農林水産課
2	木の駅「伊都山燦」の木材集荷量	2,600トン/年	6,000トン/年	毎年 5　6　0 トンの増	11,567 トン/年	5,717トン/年	●森林施業のサイクルを回転させるために糸島産材の受け入れ先となる木の駅「伊都山燦」を運営し木材流通体制を構築させる。 ●現在、糸島型森林再生プロジェクトを立ち上げ、森林施業のサイクルの復活のために、糸島産材の活用促進について取り組んでいる。	○公有林(一貴山財産区有林、市有林)や私有林の森林経営計画による森林整備により、間伐材等が森林から搬出され、「伊都山燦」に集荷された。	●「植える→育てる→収穫する(使う)→植える」の健全な森林サイクルを維持することで、森林の持つ公益的機能の発揮と森林資源の循環利用が可能となるので、サイクルの構築に取り組みます。	B	農林水産課
3	広葉樹の森の整備面積	18,430㎡	22,500㎡	毎年800㎡ の増	8,500㎡ (48,680㎡)	13,700㎡ (62,380㎡)	●竹が隣接した森林に侵入・拡大し、荒廃している森林や樹木が枯死している森林など、森林としての公益的機能が低下しており、放置すれば公益的機能が損なわれるおそれがある箇所においては、広葉樹を植栽し、森林の再生を進めている。	○瑞梅寺ダムの水源地内で侵入竹林を伐採して、広葉樹苗の植樹を実施した。	●水源涵養機能や土砂災害防止等の森林の持つ公益的機能の向上のために広葉樹の森の整備を進める。	達成済	農林水産課
4	水源涵養保安林等の指定区域拡大	3，　5　3　9 ha	3，　5　9　0 ha	毎年 1　0 ha の増	0 ha (3,550.3ha)	0 ha (3,550.3ha)	●森林が持つ水源涵養等の公益的機能を向上していくため、山林所有者の理解と協力を得ながら、保安林の指定区域を広げている状況である。	○山林所有者に保安林制度のしくみ等を説明し保安林の指定区域の拡大に取り組んだ。	●今後も、水源涵養等の公益的機能の高度発揮を維持させるため、継続して保安林等の指定区域を拡大していく。	B	農林水産課
5	担い手への農地集積率	5　1　%	5　6　%	基準値より 5　%増	5　6　.　8　%	57.0%	●農地集積円滑化事業、規模拡大加算交付金の活用により若干ではあるが利用集積される農地面積が増えた。	○JA糸島などの関係機関と協力しながら、認定農業者などの担い手への集積を進めた。	●農地集積円滑化事業が廃止となり、農地中間管理事業への移行がスムーズに行えるよう、JA糸島などの関係機関と協力しながら、担い手への集積を推進していく。	達成済	農業振興課
6	水質調査箇所数	9　9 箇所	1　0　0 箇所	検査箇所数を維持	1　1　0 箇所	113箇所	●水環境の保全を図るため、河川、溜池、地下水等の水質調査を実施している。	○河川69箇所、溜池16箇所、地下水28箇所得水質調査を行った。	●生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため、今後も継続して水質状況の監視を行っていく。	達成済	生活環境課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の(　)は、累計数

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
7	河川の平均 BOD値	1． 0 mg/ℓ	2. 0mg/ℓ以下	2. 0mg/ℓ以下を維持	2． 1 mg/ℓ	0.94mg/ℓ	●公共下水道・集落排水の整備や合併処理浄化槽の普及により、徐々にではあるが河川の水質は改善している。	○河川調査地点66箇所で、環境基準の生活環境項目であるBOD値の検査を実施した。 ○平成30年度と比較すると1. 16 mg/ℓ数値が減少した。	●快適な生活環境を確保するため、目標値を維持していくよう、今後も監視していく。	A	生活環境課
8	市街地や公園など生活環境に満足している市民の割合 【市民満足度調査】	1 7． 2 %	1 8． 0 %	基準値より0． 8 %増	2 6． 1 %	22.1%	●公園のトイレの老朽化など利用者が使いづらい公園がある。また、成長した樹木の倒木など近隣住民が不安に思う公園がある。	○市街地隣接公園高木伐採事業 高田東公園 篠原公園 南風台緑地 ○市民満足度調査において公園に特化した項目を新設したため、満足度が4ポイント低下した。	●公園トイレについては、『公共施設総合管理計画』に則り、計画的に更新、改修する。また、成長した公園樹木については、緊急度を鑑み、必要最低限の伐採を行う。	達成済	施設管理課
9	景観について市民の意識醸成のための研修会などの開催回数	0 回	3 回	基準値より3 回増	2 回 (5 回)	2回 (7回)	●自然環境や景観に配慮したまちづくりを行うには、多様な自然環境を保全しながら地域に住み続けられる仕組みが必要であり、またそこに住む人の理解が重要であるため、地区計画制度の検討を行う中で地域住民を対象に説明会等を開催している。	野辺・福ノ浦地区、馬場地区の地権者説明会にて、景観形成に係る趣旨及び規制内容について説明を行った。	今後も必要に応じて地域に入り、住民の理解を得ながら自然環境や景観に配慮したまちづくりを進めていく。	B	都市計画課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-2 豊かな自然の再生

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる

「D」やや遅れている 「E」遅れている 「-」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実績	元年度 実績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	污水处理人口 普及率	88.1%	93.0%	毎年1%の 増	91.9%	92.1%	●各事業を計画的に整備(工事)することにより、処理人口が増加している。 ①公共下水道事業 ②集落排水事業 ③個別排水処理施設整備事業 ④合併処理浄化槽設置整備事業	○各事業の整備(工事)を行った。 ①公共下水道事業 ②集落排水事業 ③個別排水処理施設整備事業 ④合併処理浄化槽設置整備事業	●今後も、都市基盤の充実、快適な農山村生活の充実、河川やため池などの水環境保全のため、計画的にこれらの事業を推進していく。	B	下水道課
2	農家戸数	2,145戸	2,040戸	基準値の 約5%抑制	2,145戸 (H26年度)	2,145戸 (H26年度)	●センサスによる数値であるため、現状値は不明。 ●大規模農家への支援集中や高齢化などで、農家戸数の減少は進んでいると見込まれる。	○新規農家の確保や農業経営の継続に向け、新規就農支援や担い手への機械導入支援等を実施した。	●引き続き、対象者の幅を広げ、小規模農家でも農業を継続できるよう、販売農家を対象に補助事業を再編し、農家戸数の維持を図る。	—	農業振興課
3	認定農業者数 (経営体数)	368経営体	380経営体	基準値より 4%増	▲9経営体 (373経営体)	▲1経営体 (372経営体)	●後継者不足や高齢化等の理由で、農業経営改善計画の再認定を受ける方が多くなって生きている。	○JA糸島や県普及指導センターと連携し、経営状況の把握や指導、また、連絡協議会において各種情報の提供を行った。	●今後も、JA糸島や県普及指導センターと連携した指導等の対応はもちろん、連絡協議会からの各種情報提供を行い、認定農業者の維持・拡大を図る。 ●糸島市新規就農者ネットワーク協議会と連携し、新規就農者を認定農業者へと育成を図る。	B	農業振興課
4	ふくおかエコ農 産物認証制度認 定者数	28戸	30戸	基準値より 8%増	▲11戸 (35戸)	3戸 (38戸)	●平成30年度から、環境保全型農業直接支払事業の要件が当該認証制度から国際水準GAPの実施に変更になったため、大幅に減少していたが、若干増加した。	○ふくおかエコ農産物認証制度の認定と共に、国際水準GAPの実施の推進を図った。	●安心・安全な農産物を求める消費者に応えるため、減農薬減化学肥料栽培による作物づくりが広く普及しつつあり、今後も引き続き、国際水準GAPの実施への移行等を含め推進する。	達成済	農業振興課
5	新規就農者数 【平成22年度以降】	83人	150人	基準値より 80%増	8人 (131人)	13人 (144人)	●市とJA糸島、県普及指導センターが連携し、毎月、就農希望の相談や情報交換、農業次世代人材投資事業の説明・精査等を行っている。	○現状に記載のとおり、市とJA糸島、県普及指導センターが連携し、情報を共有しながら対応してきた。 ○H31.2月に糸島市新規就農者ネットワーク協議会を設立。農業経営、技術の向上を図り、農業の定着化を進めている。	●現状の連携体制を維持し、就農希望の相談や情報交換、農業次世代人材投資事業の説明・精査等を行う。 ●糸島市新規就農者ネットワーク協議会において、農業経営、技術の向上を図っていく。	B	農業振興課
6	耕作放棄地の 再生利用面積	6ha	48ha	毎年7haの 増	4.5ha (21.5ha)	1.7ha (23.2ha)	●平成30年度で国・県の補助事業が廃止となり、今年度から市の単独補助により、再生を進めている。 ●農業委員と最適化推進委員と連携し、取組者への推進を行い、耕作放棄地の再生利用を行っている。 ●耕作放棄地の再生は、継続の取り組みにより解消はされてはいるが、農業者の高齢化など、新規に発生している面積も増えている。	○現状に記載のとおり、耕作放棄地の再生事業や既に解消した農地への作付補助(種苗代の補助)を行った。	●現状の連携体制を強化し、耕作放棄地を再生し、農地の有効活用を図る。 ●各地域の耕作放棄地の分布状況を把握し、地域での話し合いを進め、新たな担い手の育成を行う。 ●農地利用最適化の一環として、所有者と耕作者向けのアンケートを実施。アンケート結果を基に令和2・3年度にかけ、農家への訪問を実施し、マッチングを図る	D	農業振興課

7	広葉樹林化 実施箇所数	6 箇所	1 6 箇所	毎年 2 箇所 植樹	1 箇所 (12箇所)	2箇所 (14箇所)	●背振雷山山系を走る広域基幹林 道沿いを中心にして、広葉樹林化に むけた植樹を市民団体と協働して 行っている。 ○令和元年度も、令和2年2月に白 糸の滝周辺にて、広葉樹の植樹を 行った。 ○市管理地において、企業と協定を締 結し、広葉樹の植樹が実施された。	●今後も、市民協働での森林づくりに 取り組んで、市民に森林に親し み、森林の大切さを啓発する。	B	農林水産課
---	----------------	------	--------	---------------	----------------	---------------	--	---	---	-------

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
8	森林の間伐面積	9 1 7 ha	1 , 7 7 0 ha	毎年 1 7 0 haの間伐	20. 81ha (982ha)	7.84ha (990ha)	●糸島型森林再生プロジェクトにより、国の美しい森林づくり基盤整備交付金や市の林業振興補助金等で補助しながら、間伐などの森林整備を行っている。 ●間伐材等搬出補助金制度を創設し、間伐材等の未利用材の利用促進を行っている。 ●森林組合に対して、間伐材の収集運搬用機械(グラップル・フォワーダ)の購入補助を行い、作業効率の軽減や危険防止などを図っている。	○市の林業振興補助金等による間伐により、7.84haの森林整備を進めた。	●間伐作業は、森林環境税を活用した荒廃森林の整備と合わせ、国・市の補助金を活用し、水源涵養機能の保全、土砂災害防止等の多面的機能向上のために取り組みを進める。 ●間伐材等搬出補助金制度や貯木場「伊都山燦」を活用しながら、自ら保有する山を自ら管理する「自伐林家」の育成にも努めていく。	C	農林水産課
9	松林保全アダプト制度の登録団体数	9 団体	2 0 団体	毎年 2 団体の増	1 団体 (1 4 団体)	0団体 (14団体)	●松枯れの被害が平成22年から増加し、平成24年には甚大な被害となり、松林の保全のため、薬剤の散布や駆除を継続して実施している。 ●松林保全のためアダプト制度による松林の清掃・美化活動を推進し白砂青松の再生に取り組んでいる。	○アダプト登録団体により福井ノ浜と幣ノ浜で、7. 5haの松林の清掃・美化活動が実施された。	●地域の活動団体や大手企業などにアプローチし、登録団体数を増加させ松林の保全に取り組むことにより、松林の持つ公益的機能の回復に努めます。	B	農林水産課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2－3 生物多様性の保全

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている 「E」遅れている 「－」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	生物多様性 地域戦略の策定	未策定	策定	新規作成	未策定	未策定	●福岡県では、平成24年度に生物多様性地域戦略が策定された。しかし、本市の生物多様性地域戦略の策定には至っていない。	○生物多様性地域戦略の策定検討については、他市町村の策定状況の調査や研修会等に参加するなど、調査・研究を進めた。また、令和2年度の策定にむけて必要な予算措置を行った。	●生物多様性地域戦略の策定については、令和2年度に本市の環境基本計画の中に生物多様性施策の内容を取り込む。	E	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3　歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針　3－1　歴史的風土・文化の保全

「A」順調に進んでいる　「B」概ね順調に進んでいる　「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている　「E」遅れている　「－」評価できない　「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実　績	元年度 実　績	現　　　　状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	怡土城跡保存修理工事の実施箇所数	2箇所	8箇所 (H29年度)	全ての修理箇所を完成	0	0	●予定された工事箇所は平成29年度をもって全て終了している。	○左記の理由により実施していない。	●状況に応じて実施する。	達成済	文化課
2	新町支石墓群買上比率	78%	100% (H28年度)	該当地域を全て買い上げ	0	0	●予定された買上げ事業は平成29年度をもって全て終了している。	○左記の理由により実施していない。	●残り一筆の買上げが終了していないが、全体計画に支障はないため、今後の状況に応じて実施する。	達成済	文化課
3	神楽の保存団体数	2団体	2団体	基準値を維持	2団体	2団体	●高祖神楽保存会と福井神楽保存会の2団体により実施されている。	○後継者の育成のために補助金を交付した。	●今後も継続して後継者の育成を支援する。	達成済	文化課
4	無形の文化財の指定件数	6件	10件	基準値より4件増	1件 (8件)	0 (8)	●県指定及び市指定の8件が無形民俗文化財に指定されている。	●野北祇園、波呂の盆踊りなどの現地調査を行ったが、指定に必要な資料を得ることができなかった。	●新規指定に向けて継続して調査を行う。	B	文化課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3　歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針　3－2　環境教育・学習、環境保全活動の充実

「A」順調に進んでいる　「B」概ね順調に進んでいる　「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている　「E」遅れている　「－」評価できない　「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	環境学習 プログラム数	1 件	2 件	基準値の 2 倍	3 件	3件	●ごみ減量のおはなし(学校用・大人用)、糸島市クリーンセンター施設見学のパンフレット・ビデオ、小水力発電施設のパンフレットを活用し、出前講座や施設見学会を行っている。	○学習プログラム(テキスト)を使用し、ごみ減量や再生可能エネルギーの出前講座、施設見学会を行った。	●今後も市民の意識向上のための講座等を開催する。	達成済	生活環境課
2	環境家計簿 登録者数	3 8 5 世帯	4 4 5 世帯	毎年 1 0 世帯の増	▲ 2 世帯 (600世帯)	22世帯 (641世帯)	●毎年、広報やホームページでの周知のほか、地球温暖化防止啓発イベントの中で登録を呼びかけている。	○広報掲載 ○ホームページ掲載 ○イベント内での啓発(手をつなぐ市民のつどい、はてな博)	●今後も福岡県地球温暖化防止活動推進員及び推進センターと連携を図り、登録者を増やしていく。	達成済	生活環境課
3	環境ボランティア 団体向け学習会の開催	0 回	1 回	新規開催	1 回	1回	●団体ごとに活動内容が異なるため、どの団体にも関心を持ってもらえるようなテーマの学習会を開催している。	●福岡県地球温暖化活動防止推進員を講師に迎え、地球温暖化を軸とした環境全般に係る内容の講座を開催した。	●県政出前講座等の利用や、登録団体の意見を取り入れながら学習会を開催し、環境についての知識を深めていく。	達成済	生活環境課
4	環境イベントの 開催	1 回	2 回	基準値の 2 倍	6 回	7回	●糸島市民まつりや地元のイベント等で、環境ブースを設けリサイクルや環境に関する啓発活動を行っている。	○市民まつり(2日)、校区文化祭(5校区)でブースを設けごみ減量やリサイクルの推進を行った。 ○市民団体主催のイベントの広報、行政区回覧など、支援を行った。	●市内で開催されるイベント等で環境ブースを出展し、ごみの減量・分別、リサイクル、省エネルギー等の環境に関する啓発活動に取り組んでいく。 ●市民団体主催イベントの支援、協力などを行っていく。	達成済	生活環境課
5	食育に関する 農業体験事業数	2 8 事業	2 5 事業	現状維持	2 4 事業	33事業	●農業公園の指定管理や福吉地域づくり推進協議会の支援などにより、今後の農業体験事業の充実を期待している。	○農業公園での農力祭や収穫祭、体験講座を実施した。(全23回) ○福吉地域では、まるごとコメ道場、トウモロコシ収穫体験を実施した。 ○子どもを対象とした農業体験イベントとして「キッズファーム事業」を開始した。(全8回)	●今後も、農業公園での体験事業の推進や福吉地域づくり推進協議会の支援などを行いながら、事業の充実を図る。 ●子どもを対象とした農業体験によって農業への理解の他、郷土愛の醸成に努めていく。	A	農業振興課
6	学生のための 食農事業数	2 事業	5 事業	基準値より 3 事業増	4 事業	4事業	●学校と連携して、講座や農業体験等を行い、食育及び農業の普及に努めている。	○糸島まるごとコメ道場(九州大学) ○耕作放棄地再生事業(中村学園大学) ○直売所ガイドブックを活用したスタンプラリーを実施(中村学園大学)) ○糸農講座(糸島農業高校)	●今後も学校と連携して事業を進めたい。	B	農業振興課
7	市民1人当たりの 公園面積	6 . 5 9 m ²	6 . 7 5 m ²	基準値より 0 . 1 6 m ² 増	6 . 7 1 m ²	6.71m ²	●全国、福岡県の平均水準を下回っているため、憩いの場となる公園を増加させる必要がある。	○前年度より公園数が5件(開発公園、緑地)増加したが、借地返還に伴い1公園(多久球場公園)を廃止したため、公園面積は257 m ² 減少、1人当たりの公園面積はほぼ横ばいとなった。 ○公園新設の際、周辺環境はバリアフリーに配慮した施工となるよう開発者等へ始動を行った。	●開発に際して市民が利用しやすい公園になるよう指導し、公園数の増加を進める。	B	施設管理課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 3-3 自然、歴史とのふれあいの推進

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている 「E」遅れている 「-」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	自然歩道の 整備延長	約 4 1 . 2 km	約 4 2 . 6 km	基準値より 1 . 4 3 km 延長	約44. 4km	約44.4km	●市内11山に登山ルートを設定し、糸島の山歩きマップにて紹介。 約44.4kmの自然歩道を整備。	○既存の自然歩道の管理を行った。	●登山ブームにより利用者が増加しており、既存の自然歩道の整備(管理)だけでなく、新たなルートの設定や整備を引き続き検討していく。	達成済	商工観光課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標4　安全・安心な生活環境をつくる」の主な事業

■施策の方針　4－1　地域美化の推進

「A」順調に進んでいる　「B」概ね順調に進んでいる　「C」ある程度進んでいる

「D」やや遅れている　「E」遅れている　「－」評価できない　「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	春と秋の美化活動への参加者数	42,641人	46,500人	毎年1.5%の増	48,467人	46,853人	●市民の生活環境の向上を図るため、地域の環境美化活動を推進する。 ●市民へ周知し、各行政区や隣組単位で、地域の清掃活動を実施してもらっている。 ●行政区だけでなく、個人や団体により、年間を通して市内の清掃活動が行われている。	○住民が春と秋に地域の環境美化活動に取り組まれた。 ○春季参加者数:24,744人 ○秋季参加者数:22,109人 ○対前年度比1,614人の減少。	●市民の環境意識の向上につながっており、今後も啓発や行政区内での周知の徹底を図るなど、より一層の活動を充実をさせる。	達成済	生活環境課
2	市の環境パトロールごみ回収量	94トン	80トン	毎年2.8トンの減(H28～)	114トン	125トン	●不法投棄の通報による回収だけでなく、地域、団体、個人等による環境美化活動でのポイ捨てゴミや地域の草刈りで出た草等の回収も行っている。また、海岸漂着物の回収も実施している。	○対前年度比11トンの増加。 ○糸島市シルバー人材センターと社会福祉法人香月福祉会MUKAに不法投棄防止監視パトロール業務を委託し、海岸漂着物、不法投棄物、環境美化活動でのゴミなどを回収した。 ○主な不法投棄物の回収件数 タイヤ:96本　自転車:21台 テレビ:27台　冷蔵庫:22台	●年間を通じた環境パトロールと合わせ、市民や事業者、地域、不法投棄監視ネットワークなどとの協働により、不法投棄監視を行う。 ●広報やホームページを活用しながら、不法投棄防止の啓発を行う。	D	生活環境課
3	不法投棄防止監視ネットワーク協力団体数	23団体	30団体	基準値より7団体増	0団体(23団体)	1団体(24団体)	●広報やホームページを活用し、協力団体の募集を行っている。 ●地域の実情に詳しい行政区長にも、不法投棄を発見した時の通報をお願いしている。 ●依然として不法投棄が多い状況である。	○広報やホームページで協力事業者の募集を行った。 ○協力団体事業所に、登録事項の変更の有無・協定内容の確認等を行い、ネットワークの強化を行った。	●協力団体の拡大のため、広報・ホームページや商工会、各種団体への訪問などで募集活動を行う。 ●協力団体に対する事業内容の再確認を行い、ネットワークの効果的な運用を推進する。	B	生活環境課
4	犬のしつけ方教室の開催数	年1回	年3回	基準値の3倍	年2回	年1回	●愛護動物(犬・猫等)に対する苦情・相談が年間を通して後を絶たず、特に近年は猫に対する苦情・相談が増加している。 ●飼い主の適正な飼養の啓発が必要である。	○11月に犬のしつけ方教室(講義形式)を開催。 ○広報に飼い主の適正飼養啓発記事を3回掲載。 ○飼い主のマナーアップキャンペーンを2回実施	●苦情・相談に関しては、糸島保健福祉事務所と連携しながら対応し、広報、ホームページ、イベントなどを通して定期的に啓発していく。	C	生活環境課
5	空き地管理に関する指導件数	約409件	約330件	基準値より20%減	約290件	278件	●近隣住民からの相談が7月から10月頃を中心に多く寄せられている。 ●市からの指導がなければ雑草の除去を行わないなど、土地管理が受動的な所有者も多い。 ●複数回指導を行っても対応がない土地所有者も多い。	○対前年度比12件減少。 ○5月に過去に指導した、あき地所有者等133名に対し、今年度の雑草除去の計画の提出を求める文書を送付した。 ○個別の相談に基づき、土地所有者に対して雑草除去等を指導する文書を送付した。	●相談があった土地については、所有者等に対し、定期的な雑草除去を中心とした自主的な土地の適正管理を促していく。 ●複数回の相談者には無料法律相談を案内していく。	達成済	生活環境課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標4　安全・安心な生活環境をつくる」の主な事業

■施策の方針　4－2　生活環境の保全

「A」順調に進んでいる　「B」概ね順調に進んでいる　「C」ある程度進んでいる
「D」やや遅れている　「E」遅れている　「－」評価できない　「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実　績	元年度 実　績	現　　　　状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	糸島市は住みやすいと思う市民の割合 【市民満足度調査】	7 0 . 2 %	7 7 . 0 %	基準値より 6 . 8 %増	8 0 . 1 %	79.7%	●市内の森林や田園、河川、海岸など豊かな地域資源を守るため、市民、事業者、行政など、地域全体での環境保全活動を進め、潤いと豊かさを与える快適な環境の形成が求められている。	○快適な住環境の向上のため、市民・行政・事業者・ボランティアなどと連携し、自然環境の保全育成や不法投棄防止、地域環境美化活動などの取り組みを行った。	●自然環境の保全には、市民の環境への意識向上が不可欠であり、市民や事業者への啓発、市民・事業所・ボランティアと行政との連携、市民活動への支援を継続していく。	達成済	生活環境課
2	野焼きの苦情件数	約 4 2 件	約 3 0 件	基準値より 3 0 %減	約 6 4 件	約35件	●庭の木や枝、雑草、家庭菜園で出た植物性の廃棄物などの焼却行為は後を絶たない状況である。 ●住宅地域付近の田畑で、焼却禁止の例外とされる農業で行われる廃棄物の焼却行為に関する苦情が多い。 ●相談件数が増えた背景には、市民の違法焼却に関する意識が高まっていることが考えられる。	○対前年度比29件の減少。 ○広報での野焼き禁止記事の掲載に加え、個別の苦情に対しては、現地での指導を行っている。 ○悪質なケース、事業者の廃棄物焼却については警察・福岡県筑紫保健福祉環境事務所等と連携し対応している。	●相談があった場合、現場に出向き、対象者へ注意喚起、指導を行う。 ●野焼き防止並びに意識向上を図るため、広報・ホームページを通じて、引き続き市民に周知を行っている。 ●農業を営むための焼却行為は、JA糸島や市の関係部署を通じて、周辺地域に配慮しながら焼却するよう、お願いしていく。	B	生活環境課
3	水道水の利用に不安を抱えている市民の割合 【市民満足度調査】	8 %	5 %	基準値より 3 %減	8 . 5 %	7.9%	●水道管が整備されていない地域において、井戸水の水量不足、水質悪化などの理由で市民が不安を抱えていると考えられる。	○平成27年度給水区域編入地域のうち13行政区に対し、アンケート調査結果及び水道整備方針を説明。	●水道に関するPR等を行い、住民の不安を解消する。	D	水道課
4	給水普及率	7 9 . 5 %	8 6 . 4 %	第8次拡張事業の計画値	7 7 . 3 %	77.5%	●新規水道加入世帯は増加しているが、平均世帯人数が減少しているため、給水普及率が増加しない。	○平成27年度給水区域編入地域のうち13行政区に対し、アンケート調査結果及び水道整備方針を説明。	●今後も地域からの水道整備要望等ごとに、アンケート調査・説明会等を実施する。	D	水道課
5	災害廃棄物の処理・処分計画の作成	未作成	作成	新規作成	作成済	作成済	●災害廃棄物の広域処理を行うため、福岡市、唐津市との相互応援協力協定を締結している。	○県で策定された計画を基に計画書の確認を行った。	●実務マニュアル作成及び災害廃棄物の仮置き場の候補地選定。	達成済	生活環境課
6	災害時し尿収集・処理計画の作成	未作成	作成	新規作成	作成済	作成済	●災害廃棄物の広域処理を行うため、福岡市、唐津市との相互応援協力協定を締結している。	○県で策定された計画を基に計画書の確認を行った。	●実務マニュアル作成	達成済	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5－1 協働の仕組みづくり

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる

「D」やや遅れている 「E」遅れている 「－」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	出前講座等の 学習会参加者数	2， 8 9 1 人	3， 2 0 0 人	毎年2.5% の増	2, 129人	2,404人	●出前講座や講習会での推進に加え、校区文化祭において、ごみ減量とリサイクル推進の普及啓発に努めている。	○対前年度比275人の増加。 ○出前講座等…実施回数:25回 参加者数:1, 213人 ○イベント等…実施回数:7回 参加者数:1, 191人	●講座・イベント等の内容の充実を図るとともに、受講者・参加者の拡大のための周知を行っていく。	C	生活環境課
2	「アグリコラボいとしま」主体の産学 官連携事業数	8 事業	8 事業	現状維持	4 事業	4事業	●「アグリコラボいとしま」の九州大学内での認知度はまだ低く、農学部に移転に伴って認知度も上がり、ワークショップなど、今後の連携事業は増えてくると期待している。	○アグリコラボ事業として講演会、フォーラム、農場視察バスツアー、ワークショップを実施した。 ○すべて、市内の農業者が参画している。	●今後も、九州大学、県（普及センター）、JA、農業者と幅広く連携しながら、農業者に有益な事業を企画する。 ●会員が少ないため、加入を推進する。	C	農業振興課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5－2 環境情報の共有

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる

「D」やや遅れている 「E」遅れている 「－」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実 績	元年度 実 績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	環境情報サイト 新着情報数	9 件	1 2 件	毎月 1 件の 掲載	2 1 件	12件	●より多くの情報を掲載するように生活環境課内で意識付けを行い、環境に関する情報を掲載している。	○環境に関する市の取り組みや啓発、イベント等の情報を掲載。	●市の取り組みやイベント等の情報をより多く掲載できるよう継続して取り組んで行く。 ●市民に情報提供することで、環境保全の意識向上やごみの適正処理とリサイクルを推進する。	達成済	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5－3 人材の育成と活用

「A」順調に進んでいる 「B」概ね順調に進んでいる 「C」ある程度進んでいる

「D」やや遅れている 「E」遅れている 「－」評価できない 「達成済」

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (R2年度)	目標値の 考え方	30年度 実績	元年度 実績	現 状	令和元年度取組内容	今後の取組、方針等	評価	所管課
1	環境ボランティア ネットワーク加入 団体数(加入者 数)	1 3 団体 (3 6 6 人)	2 0 団体 (5 6 0 人)	基準値より 7 団体増	2 団体 (1 8 団体) 4 人 (4 5 8 人)	△ 1 団体 (17団体) △ 7 人 (451人)	●1団体登録廃止により、総数は17団体。 ●環境ボランティア活動に関する情報交換会を年に1回実施している。 ●環境ボランティア団体の活動を支援する事業を実施している。	○令和2年1月に意見交換会、学習会を実施。 ○環境ボランティアネットワーク登録団体の3団体に対し、物品等を支給。 ○環境イベントや企業からの補助金情報について、登録団体へ周知。 ○加入団体を拡充するため、広報・ホームページで募集を行った。	●加入団体拡充のため、広報・ホームページで加入を募る。 ●糸島市ボランティアセンター「こらぼ」と連携して、情報発信や会議、学習会を開催し、団体活動の活性化を図る。 ●ボランティア支援事業の活用促進を行う。	B	生活環境課

※平成30年度及び令和元年度の実績欄の()は、累計数